

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	令和2年度第2回東村山市立図書館協議会				
開催日時	令和2年11月26日(木) 午後2時～午後4時				
開催場所	いきいきプラザ 教育委員会室				
出席者 及び欠席者	●出席者： (委員) 伊藤浩介委員・大堀浩委員・竹澤廣介委員・真野朋子委員・石河聡子委員・徳永靖子委員・堀渡委員・宮川健郎委員 (市事務局) 新倉図書館長・野口館長補佐・榎本調査資料係長・並木富士見地区館長・安保廻田地区館長・小山主任 ●欠席者： 黒尾和久委員				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由		傍聴者数	無し
会議次第	1. 協議 第4次東村山市子ども読書活動推進計画(案)について 2. 報告 (1) 令和2年度事業について (2) 9月議会より (3) 市長への手紙・図書館への問い合わせメールより (4) その他				
配布資料	配布資料 1. 令和2年度第2回図書館協議会次第 2. 第4次東村山市子ども読書活動推進計画(案) 3. 令和2年度第2回図書館協議会報告資料				
問い合わせ先	事務局 担当者名 電話番号 FAX番号	東村山市立中央図書館 野口 042-394-2900 042-394-4107			

会 議 経 過

1. 協議

- 新型コロナウイルス感染状況により会議の開催日程が不安定になっているが、教育現場では通常業務をしながらの毎日の対応となっているだろう。With コロナの中協議会としてどう検討していくかの視点も必要である。今回の会議は予告通り「第4次東村山市子ども読書活動推進計画（案）」についての協議が中心となる。

(事務局) 狭い会場となったが可能な限りの対応はしているのでご理解いただきたい。現在策定中の「第4次東村山市子ども読書活動推進計画（案）」について説明する。策定にあたり、市内の個人団体にアンケートを取った。アンケートは新型コロナウイルス対応のため対面での聴取は行わず文書で回答を集めた。来館者から約860件、ボランティアや学校・保育園など関連団体・施設から約550件、合わせて1400件余りの回答をいただいた。協議会委員にもご協力いただき感謝している。主な意見としてはボランティアを活用した取り組みへの評価が高かった。学校図書館への意見が多かった。学校図書館専任司書配置について高い評価を得たが、時間数増などレベルアップ要望が多かった。学校図書館へのコンピュータシステム導入の要望も多かった。多摩地区での未導入自治体は本市を含めて5市である。障害者(児)へのサービス増強希望の意見もあった。

協議会委員からの意見は、評価された点は学校図書館専任司書についての他、市民協働を進めた点、中央図書館で2階読書室などの利用対象を中学生以上に緩和したこと、命の教育への取り組みなどがあがった。今後の取り組みを期待された点は、事業のPR不足、計画に基づく庁内連絡会の内容が見えにくい点、中高生世代(ティーンズ世代)や障害児等図書館を利用しにくい子どもへの取り組みなど進んでいないこと等が挙げられた。第4次計画で進めほしいこととしては、電子書籍サービス、デジタルツールの利用、学校図書館のさらなる充実、他所管との連携強化、図書館以外の窓口の増設等があがった。すべての意見を直接盛り込むことは難しいが参考にしていきたい。

- 私立校のアンケート結果を知りたい。学校との連携はどうしても市立中心になってしまう。学校側の考えを知りたい。

(事務局) 市内所在の全校に配布し2校が未回答だった。現在の自校の取り組みについての記述が多かったが、先進的と感じるものはなかった。公立図書館への要望は大きくなかったが、(授業のための本の配送をする) 特別貸出の継続要望があった。

- 私立学校と市立学校との関係はどうしても差が出てしまう。私立のほうが進んでいた部分があったが最近では差がなくなっている。アンケートの回答は自校のPRが多かったということと思う。
- 計画案P. 6「第3次計画の成果と課題」の中の「(2) 主な課題」について聞きたい。蔵書数増について前向きだが、「さらなる取り組み」の主語は何か。量のことか、質のことか。
2段落目の学校図書館専任司書の「業務の軽減化」について、学校現場で司書にかかわった経験から、業務を減らすことを望んでいるのではなくもっとかかわりたい

との意欲を感じていて、これが日数増への要望となっていると考えている。取り組みの充実化へ進むことがわかる記述にするとよいのではないか。

4段落目の「外国にルーツをもつ」は「ある」のほうが良いかもしれない。

5段落目の「読書ツール」とは何か。わかりやすい表現にしたほうが良い。

- 学校司書の項目で、「軽減」では後ろ向きの印象がある。現場の学校図書館専任司書も含めてサービスを充実させたいと思っているはず。1段落目の図書標準の達成はめどが立っているか。

(事務局) 教科書の変更のため予算が増加している。この状況が続けば、学校によりばらつきはあるがあと数年で達成すると見込んでいる。

- 全体に文章を切って意味が通りやすくしたほうが良い。2段落目の学校図書館専任司書の記述について、単なる業務の削減による軽減ではなく、サービス体制の充実を目指していることはわかる。

- 主語が明確でないためだれの課題なのかわかりにくい。

(事務局) 本計画は市の取り組みなので主語は東村山市である。学校図書館専任司書の配置増は市が責任を持って進めていきたいと思っている。

「外国にルーツを持つ」の表現は「外国につながりを持つ」と表現している所管がある。これは外国生活が長い日本人も含めるためである。

- 文部科学省の表現はどうか。

(事務局) 両方使っていたが最近は「外国につながる」と表現して、外国籍の他、帰国者も包括している。

- 図書館と読書のはなしでいうと、国籍のことではなく日本語を読めない人ということか。

- 母語の本の提供が必要ということだ。

- 北欧では図書館で母語の本に触れられるようになっている。両方の文化の応援をしている。

- 主な課題として「中高生への取り組みが十分にできなかった」と書いて引き継いでいくべきではないか。第3次計画に項目を立てているので、できたことを書いたうえで次への課題を挙げておいたほうが良い。

- ボランティアの活動人数は何人くらいか。

(事務局) 登録が約80人で実働が約50人である。様々な事情で活動をやめていく割合は高い。今は新型コロナウイルス関係で各所への派遣が難しいが、元に戻ったら安定して派遣できるようにしていきたい。

●ボランティアの量的質的な維持は大変と思う。学校図書館の課題は多いが、評価の高かった乳幼児への取り組みにも課題はあるはずである。

●5年間の計画だが、最初の1, 2年は新型コロナウイルスの影響が続き学校へ入っていけないため成果が出せないのではないか。

●新しい生活様式に対応した計画づくりが必要と思う。

●おはなし会等ができないため子どもへ直接語りかけることができていない。この状況がまだ続くと予想されるので盛り込んだほうが良いのではないか。

●新型コロナウイルス対応を別建てにしたほうが良いのではと思う。第3次計画に合わせて項目立てをしているのはわかる。1章にはSDGsの記述もあり書き方がこれまでとかなり違う。

●図書館くまボラさんの説明があるとよい。

●P. 6 主な成果の6段目の図書寄贈について、使用目的を限定しているのか。

(事務局) 朝読書用の本は自分で持ってくることになっているが忘れた子のために各クラス置きにする目的で寄贈したが使途を限定しているわけではない。学校図書館で図書委員と振り分けしている学校もある。

●学校現場では朝読書限定ではなくそれぞれの事情に応じて活用している。また、中学校の特別支援教室は「アーチ」である。

●読む人のために用語解説を付けてほしい。

(事務局) 第3章の計画内容は主に年代別に作成した。これについてご意見をいただきたい。

●子どもの本は顧客の二重性がある。読むのは子どもだが選び与えるのは大人である。与えることで子どもとつながることができるが、与えないことで切り離してしまうこともできる。家庭で何をそろえるか、蔵書構成に影響を及ぼすのは大人である。そのため大人への記述が必要なのではないか。

●全体にかかわることなので第1章「計画について」にないと座りが悪い。

●他市の計画で家庭を主体として入れようとしているところがある。

●P. 1 コンセプトに「子どもと本をつなぐ大人たちが～」との記述がある。

(事務局) 書いてあるがより明確化するということか。

●大人への啓蒙が必要である。

- 責任の所在をはっきりとさせるとよい。

(事務局) 新型コロナウイルスに関してはP. 13などで触れている。現在休止しているおはなし会の再開を夏に予定したが、再拡大したため中止した。コロナ禍の中で出来ることは何かを考えながら事業を行っている。新手法を探っているがオンラインでのおはなし会は著作権の壁が高い。著作権切れの作品ばかりでは子ども対象の事業として効果を望みにくい。計画には大きな表現で入れている。

- 具体的なことが入っているほうが努力が見えてよい。

(事務局) おはなし会へのボランティア派遣を中止しているので、モチベーション維持も含めて手人形を作ってもらい保育園へ寄贈する準備を進めている。小規模園の開園が増えているので本計画のアンケート依頼時に除籍図書の寄贈希望を募った。ほとんどの園から希望があり喜ばれた。

- 子ども用資料について絵本と記述されているが、絵の多い子どもの本が落ちている。絵本と絵の多い本の幼年文学とは違う。絵本は絵と文章が不可分であるが、幼年文学は絵がなくても文章だけで物語を伝えることができる。成長の過程で次につながるステップとなる。

- P. 14 結びが「はかります」となっているものが多いが、あいまいなので「増やせるように工夫します」等のほうがよい。

- P. 17-19 小中学生への取り組みの調べ学習について実際にとっても助かっている。国語科や各教科の調べ学習等の具体的な記述にするとよい。特別貸出の制度も利用しているが実績を載せてもよいのではないか。

(事務局) 資料編に載せるか検討する。

- P. 14の保育園は市立のことを指すのか。

(事務局) ここでは市立保育園を指す。私立保育園には理解を求めていく。P. 15 学校図書館の重点事業の項目は独立させて指標を入れた。

- 担当所管の明確化をしたのはよい。

- P. 20 高校生等（おおむね16～18歳）への取り組みについて、児童館の記述があるが高校生も使えるのか。

(事務局) 18歳まで利用できる。

- P. 19 中学生への取り組みについて、市内の中学校で生徒がPOPを作ったりしているが、今は新型コロナウイルスの関係でやりにくい。計画の項目は網羅的に記述されていると思う。

(事務局) 壁新聞を作るなど学校ごとに特徴のある取り組みをしている。先生方のおかげと思っている。

- 中学校の読書活動が見えにくい。写真をつけて活動紹介があるとよい。
- 図書委員の取り組み等を入れてもよいのでは。
- 高校生等についてもっと手厚く記述してもよいのではないか。高校へはほぼ全入だが一定数が中退して全卒ではない。サポート校等に移る人たちがいるが図書館の無い環境で学習することになり読書がしにくくなっている。他市で中学の卒業式で市立図書館の案内をしているところがある。公立図書館はこの世代に対応する力を持っているはずなので取り組みを深めてほしい。

(事務局) 不登校の親の会で図書館学生ボランティアを評価されたことがある。

- そのことを記載してもよいのではないか。
- 進路サポートのことを書いてほしい。
- 中高生に紙芝居を演じると反応が良い。図書館に足を運ぶきっかけになるのではないか。
- 10代で図書館の利用者になれば大人になっても図書館を利用する市民になる。
- 図書館は自立と進路実現へのサポート場所になる。
- 生涯学習市民を育てる場所にもなる。
- 中学校では3年生が進路を決める時期になっている。図書館の無いところへ行く生徒が一定数いる。学校案内に立派な図書館を載せて充実した設備紹介の一環としている学校があるが、受験対策用の勉強部屋のように読書の場となると公共図書館の役割は重い。
- 自分で情報を取る大切さがある。
- 多様な視点で図書館にできることを入れてほしい。児童館の利用はどうか。

(事務局) 富士見児童館のみ夜間に開けていたが利用はそれほどなかったようだ。今は新型コロナウイルスの関係で部屋を閉めている。

- ティーンズコーナーの本は一般書、児童書ともに入れるので蔵書構成や棚づくりの工夫がしやすい。棚の写真や収集方針を載せてもよいのでは。

(事務局) 資料編に載せるか検討する。次にP. 21項目7「読書活動や図書館利用

がしにくい子どもへの取り組み」だが表現が難しい。

- 電子書籍について障害者の支援ツールとしている。

(事務局) 電子書籍は高価なため薄く広くではなく、ジャンルや対象を明確にして導入したい。多文化や障害者サービスを最初に考えている。他市では中高生向けのライトノベルを中心に置いて登録率を上げたところがある。1タイトルごとに選ぶのではなく、サービス業者のパッケージセットを入れているところが多い。

- あいまいな対象で入れるよりも位置づけをはっきりさせて入れたほうがよい。デジタルツールの導入は学校教育のほうが先行しそうだが、ここでは読書を中心に考えたい。
- 今年は新型コロナウイルス対応が中心だが、今後自然災害は増えていくと思う。災害時の子どもの読書支援について章立てが必要ではないか。被災地の事例研究を盛り込んでいく必要があると思う。
- 災害対策は入れてもおかしくはない。P. 3第1章「計画について」の中で新型コロナウイルス対応の記述があるがここを膨らませてもよいかもしれない。
- 今回出た意見を持ち帰りまとめてほしい。

2. 報告

(事務局) 長年視覚障害者向けの音訳資料を作成している東村山音訳の会が「令和2年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰(功労者表彰)」を受賞した。日ごろの活動に感謝する。

- 市長への手紙・図書館への問い合わせメールよりの項目で、図書消毒機設置希望の意見が寄せられたようだがどうなのか。

(事務局) 現在のところ導入の目途は立っていない。

次回は令和3年2月を予定している。

以上